

2019年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	河本 信雄
研究テーマ	田中久重の生涯と久重が手掛けた技術の歴史
研究概要	江戸時代後期から明治初期にかけて、職人・技術者・起業家として活躍した田中久重の生涯は、その全てが明らかになっているとはいえない。また、久重は時計・からくり人形・電信機・銃砲など多くの技術製品を製作しているが、これらの技術の歴史も明確になっているとはいえない。この二つのことを調査研究し明らかにしていく。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>博士後期課程修了（2016年3月）後は、田中久重が手掛けた技術分野の調査・研究に関して、それまでの時計・からくり人形・電信機から大砲関連へと軸足を移した。現在は在学時代に研究が及ばなかった、佐賀藩出仕時代の火砲製造について研究している。火砲は裾野の広い技術なので、火砲の歴史のみならず、銃、冶金、工作機械にまで調査・研究対象の幅を広げている。このこともあり日本銃砲史学会に所属し、知識の幅および交流の範囲を広くするように努めている。2018・19年にはその研究成果として、久重が携わったとされている、いわゆるアームストロング砲の製造に関する論文を、2019年には久重が製造した蒸気銃（砲）雛形に関する論文を発表した（次項参照）。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>①「幕末佐賀藩におけるいわゆるアームストロング砲の製造をめぐって 田中久重と石黒直寛関係史料および文献よりのアプローチ」（一）・（二）—序章その1・その2—『福岡地方史研究』第56・57号所収、福岡地方史研究会（2018年9月・2019年9月）</p> <p>②「田中久重が製造した蒸気銃（砲）雛形」原田敬一編『近代日本の軍隊と社会』吉川弘文館（2019年6月）</p>
3. 今後の課題	<p>いわゆるアームストロング砲の製造に関しては序章を書き終えたが、これに続く第一章第一節では材質である鉄について、第二節ではアームストロング砲について、調査研究するにあたっての困難さ、障害を述べる予定にしている。まとめるにあたっては鉄・冶金・工作機械などの歴史用語を含む専門的な知識が必要となるが、これらの習得が課題である。また、英語文献の読解も課題となる。</p>